

中村政人

受賞教員インタビュー 第6回

「アーツ千代田3331」の開設と運営により
平成二十二年度芸術選奨文部科学大臣新人賞「芸術振興部門」を受賞。



Photo by Hiroaki Horiguchi

アートセンターの必要性

廃校になった千代田区立練成
中学校の再利用計画として提言
された「ちよだアートスクエア構
想」を受け、二〇一〇(平成二十二
年)に「アーツ千代田3331」を開

設し、統括ディレクターとしてさ
まざまな活動が集まるアートプ
ラットフォームをつくり出し運営
してきたことが評価され、今回の
受賞に至りました。
都心の過疎化による統廃合で
利用されなくなった校舎施設を

トセンター」の具体性と可能性、東
京都の千代田区にその施設と機
能を置く意味を訴えたところ、そ
れが認められたのでしょうか。
僕自身の出身校であり、いま教
員を務める東京藝術大学を卒業
しても、それだけでは社会的信用

舞台に、どのようなコ
ンセプトとアイディア
をもとにして文化活
動を行い、区民にサー
ビスすることができ
か。建築のリノベーシ
ョンと運営の設計、つま
りハードとソフトのデ
ザインを提案する「ち
よだアートスクエア構
想」の事業計画に公募
し、実際に手がけるこ
とになったわけです。
現在のアジアのアート
シーンのなかでますま
す重要度を増す「ア

第25号 目次

02 受賞教員インタビュー 第6回

中村政人

04 geidai gallery vol.5

手塚雄二 朝霧

06 教員は語る 第17回

川瀬智之×古賀慎治

09 受賞学生インタビュー 第8回

山本良浩 藤江扶紀 秋野翔一

12 TOPICS

映旬 美旬 音旬

20 卒業生に聞く。 第4回

井上芳雄

22 研究室探訪 第4回

文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室

24 上野の寄り道 散歩道 第6回

東京都美術館

26 上野の社の波瀾万丈 第14回

東京音楽学校邦楽科への長い道のり 前篇

橋本久美子

28 展覧会&演奏会情報

漆芸 軌跡と未来
藝大21 和楽の美「悟空と九尾の狐」

30 NEWS 2012.02 ~ 2012.07

編集後記



アーツ千代田3331 外観 ©3331 Arts Chiyoda

を得ることはできないし、アートシーンで活動する場が与えられるわけではないという現実があります。こういった現状にもかかわらず、参加の機会が開かれたスペースをアーティスト自らがつくり出すという意識は、欧米に比べると日本はかなり遅れているのです。多くの人が発表できるという敷居の低さは、同時に、いろいろな

新しい価値を導く「場」

ジャンルの人がクロスする場でもあり、観る人に対しても幅広いジャンルの芸術に接する機会を提供する場にもなるのです。そうして「アーツ千代田3331」は、結果的に約二年間でおよそ八〇〇の展覧会やイベントが開催され、八〇万人という集客がありました。

僕の場合、自分自身の作家活動をしながらも、目に見えないものに対する興味を持続的にあります。例えばアートシーンをどのようにすれば活性化させることができるか、地域のなかで創造的な活動がなぜ必要なのかということも、欠かすことのできない研究対象なのです。物をつくるための

悩みを市民と共有したり、つくった物をどのように伝えるかを一緒に考えたり、実現した展覧会をみんなで鑑賞し評価するといったこと。そういったひとつひとつのプロセスや仕組みのなかで見えてくるリアリティが重要だと考えて活動してきました。

与えられた場所で何かを生み出すのではなく、新しい価値を導くために自分たちの場所をつくり、自分たちの美意識を実現していく。こういったオルタナティブな問題意識から発する活動は、世界的には主流の芸術表現であり芸術行為なのです。

また「アーツ千代田3331」のような活動においては、かつては「五軒町」と呼ばれていた地域の住民、練成中学校の卒業生、周囲で働く人々に何を果たすことができるかといった大きなミッションを帯びています。ローカルコミュニティに文化がどのように根差しているか、今後どう伝わっていくかという視点から、市民の主體的な活動が、街の循環装置や潤滑剤になるように促すことは、アーティストにとって重要な使命のひとつだと考えているのです。

藝大通信
No.25
TOKYO GEIDAI
東京藝術大学広報誌
藝大通信 第25号

■編集発行

東京藝術大学藝大通信編集部

■編集委員

松下 計 (美術学部デザイン科准教授・編集長)

高藤典彦 (美術学部絵画科日本画教授)

小鍛冶邦隆 (音楽学部作曲科教授)

毛利嘉孝 (音楽学部音楽環境創造科准教授)

筒井武文 (大学院映像研究科映画専攻教授)

大石 泰 (演奏芸術センター准教授)

アートディレクター

松下 計

■表紙デザイン

松下 計

■表紙撮影

堀口宏明

■撮影

堀口宏明

永井文仁 (美術学部附属写真センター)

■制作

株式会社 平凡社

■発行日

平成二十四年九月七日

■お問い合わせ先

東京藝術大学総務課

〒101-8774 東京都台東区上野公園12-1-18

電話 〇五〇一五五二一〇二六

FAX 〇一五五八五七七六〇

E-mail: toiwase@ml.geidai.ac.jp

URL: <http://www.geidai.ac.jp/>

中村政人(なかむら まさこ) 准教授 | 美術学部絵画科(壁画)

一九六三年秋田県大館市生まれ。一九八七年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。八九年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程(壁画研究室)修了。九〇年、九一年弘益大学大学院西洋画科修士課程卒業(大韓民国政府招待奨学生)。二〇〇三年、東京藝術大学美術学部絵画科助教(〇七年、准教授)。「美術と社会」「美術と教育」とのかかわりをテーマにさまざまなアートプロジェクトを進めるアーティスト。第四九回ヴェネチアビエンナーレでは日本館の代表作家として参加。九八年からアーティスト・イン・レジデンス「KANDADA」(神田)を立ち上げ、秋田県大館市でゼロダテ、青山県水見市での「ヒシグ」など地域での市民参加型アートプロジェクトを数多く手がける。二〇二二年東日本大震災復興支援「わがプロジェクト」を立ち上げる。アートプラットフォームの最先端を開拓し、新たなソーシャルイノベーションを実践する。